

## 謹賀新年 2013

葉をすっかり落としたケヤキの逆円錐の樹影が並ぶ道をヤッシャ=ハイフェッツのバイオリン協奏曲の演奏を聴きながら実験室に向かう。今日は30日。5月からもう8ヶ月間、安定同位体比計測器の不調と闘ってきた。まともな測定値は昨年末から年明けのものだけ、次から次と壊れてゆく。今月始めのものは極めつきで棄てる決断をした。悪夢の継続なのか、自費で出せる範囲内のものだった。とはいえ、大きく壊れる前の段階に戻っただけで、相変わらずの不調、でも不調に付き合ってくれる青年がいる。

今年もぼくが若い時代にお世話になった方々が亡くなった。次から次に亡くなって行く。とはいえ、その人達はぼくの知る限り社会から棄てられた訳ではないので由としなければならないのだろう。ぼくが教師として付き合ったかつての青年のなかには社内で厳しい状況におかれて鬱病を持病としている。今つきあっている青年の親もリストラに遭っている。社会に何とか組み込まれても社会が排除する。そういう時代になった。一方で東北の震災を契機に、絆という言葉が流行っている。深い陰を含む言葉である。そして白々しい。

マッチ売りの少女を読み返してみた。妹が誕生した日の母のクリスマスプレゼント「アンデルセン物語」の一話である。悲しいお話しただけ救いがある。そういう救いを喪失したのがこの時代だな、と考える。

2012.12.31

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします

Dataの処理ミスで大晦日越えの投函ができませんでした。早々の年賀に感謝します。